

書 評

藤縄幸雄編：天災・人災 海洋災害の分析と防災対策
生物研究社 A5判 /216p., 2006. 本体3000円, ISBN4-915342-46-8

越村 俊一*

本書は、巨大地震・津波，海洋災害の自然科学的な側面と社会科学的な側面に着目し，我が国の防災対策技術の現状と今後の展望をまとめたものである。

1995年阪神・淡路大震災以後の地震観測網の発達，被害の推定技術や把握技術の向上，情報通信技術やインフラの整備に支えられて，我々は将来起こり得る巨大地震・津波災害に対しどの程度正確な情報を得られるようになり，被害を軽減するための技術・戦略を得たかが分かりやすく述べられている。これらの内容は，学際領域である防災学の最前線で活躍している研究者の研究成果の集大成として，一般の読者のみならずこれから防災研究に足を踏み入れようとする学生諸君にも一読を勧めたい良書である。

* 東北大学大学院工学研究科